

南信州 ONE TEAM で取り組む CSF 対策

：長野県飯田家保 井上紗季

2018年9月、岐阜県で国内26年ぶりにCSFが発生し、その後野生イノシシで陽性を確認。当管内は発生県と隣接しており本病の侵入が危惧された。このような状況の中、管内では関係機関の協力のもと、いち早く防鳥ネット及び防護柵の設置を支援。2019年7月、本県の野生イノシシでも陽性を確認し、イノシシへの経口ワクチンの散布と共に、全養豚場の埋却予定地状況を確認し万一の発生に備えた。9月、県畜産試験場での発生に伴い管内で監視対象農場(2戸)を指定。その内117頭飼養の一貫経営1戸で発生。当経営は2農場であったこと、農場内の通路が狭く重機が入らなかったこと等で中規模飼養ながら防疫措置は困難を極めた。しかしながら、これまでのCSF対策で連携が強固となっていた南信州の関係機関が一体となり防疫措置完了。未だ本病発生のリスクは継続するが、飼養豚へのCSFワクチン接種やイノシシ対策等、当地域はONE TEAMでCSF対策に今後も取り組む。